東日本大震災の被災地からの牛乳やお肉、卵などは、
安全確認の調査が政府の指針にもとづいて実施され、
農家の方々も品質に自信を持って皆様にお届けしています。

食べて応援しよう!
被災地を応援

皆様のひと口が
被災地の復興に
つながります

農林水産省 食べて応援しよう! 被災地を応援 ホームページ　www.maff.go.jp/j/soushoku/eat/

畜産経営支援協議会（社団法人中央畜産会）
お問い合わせ先：03-5577-5005　cksk2010@gmail.com

日本中央競馬会
JRA 特別振興資金助成事業

食べて応援しよう。

食べることも被災地の支援につながります。

www.lipross.jp

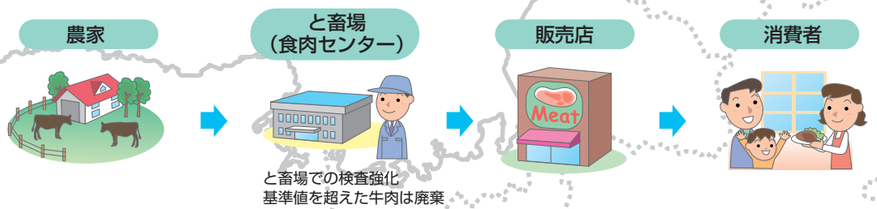
安全な畜産物が出荷されています

現在流通している畜産物は原発事故による放射性物質をチェックし、安全なものが出荷される仕組みになっています。本年４月から基準値が厳しくなっています。

牛肉

牛肉の場合、放射性物質に汚染された稲わらを食べていたことが汚染の原因と判明したので、農家段階における適切な飼養管理を徹底するとともに、全ての出荷農家の牛の検査を行うなど、検査を強化しています。検査の結果、基準値を超える牛肉は廃棄されるので、安全な牛肉だけが出荷されます。

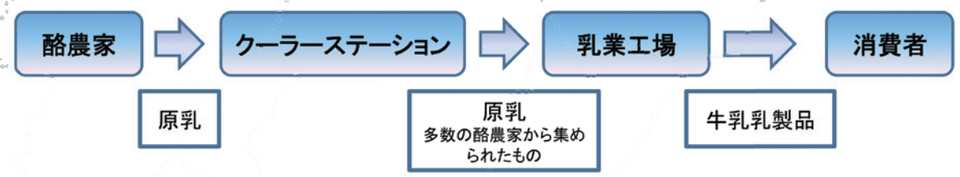
＜牛肉が出荷されるまで＞

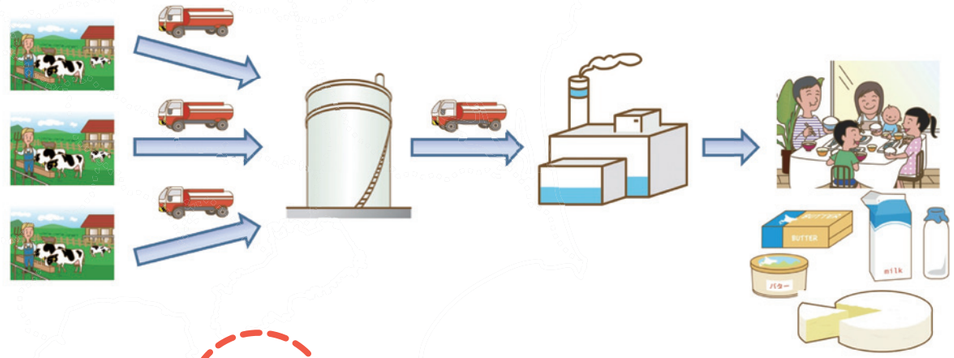


牛乳乳製品

酪農家から集められた原乳はいったん冷蔵保管施設（クーラーステーション）に集められた後、乳業工場に輸送されるのが一般ですので、定期的にクーラーステーション等で検査され、基準値を超える原乳が出た場合は廃棄され、牛乳乳製品として加工･流通することはありません。

＜原乳から牛乳乳製品ができるまで＞





農林水産省ホームページより

豚肉 鶏肉 卵

豚･鶏は、一般に飼料として穀物が給与されるので、稲わらや牧草は給与されていません。
また、豚･鶏は畜舎内で飼育されていることから、豚肉･鶏肉･卵が放射性物質に汚染される可能性は低くなっています。

放射性物質に関する基準値

	放射性セシウム
牛乳	５０ Bq/kg
乳製品･肉･卵	１００ Bq/kg

飼料

安全な畜産物が生産できるよう、放射性物質濃度が右の許容値を超えない飼料を家畜に給与しています。

飼料中の放射性物質の暫定許容値

	放射性セシウム
牛、馬用飼料	１００ Bq/kg
豚用飼料	８０ Bq/kg
鶏用飼料	１６０ Bq/kg

※牧草、わら等は水分含有量８割ベース、その他飼料は製品重量ベース

参考 人体への影響試算例

放射性セシウムが食品の基準値の上限である100 Bq/kg検出された食品1kgを食べた場合の人への影響は0.0016ｍSv（ミリシーベルト）となります。

この0.0016ｍSvの人体への影響は、今回の原発事故による影響を除いた自然の放射性物質の摂取による年間の実効線量の約250分の1です。

ちなみに、東京からニューヨークに飛行機で片道移動した場合の約65分の1と言われています。

（出典　厚生労働省　薬事･食品衛生審議会　平成23年7月12日開催　資料をベースに新基準値におきかえたもの）